

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 花水木
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県 角田市
記入者名 (管理者)	赤井田 友美
記入日	平成 20年 10月 25日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	地域の方々に更なる理解と協力を頂くために、地域の方々と関わりを持ち、行事等に参加していきたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念を元に、一人ひとりが望んでいることを一つでも多く実現出来るよう、本人・家族を含め話し合う機会を設けていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	今以上に近隣の把握に努めていきたい。そして散歩帰りに立ち寄れるお茶のみ友達のような関係を築いていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域高齢者の暮らしの支援としてH19年4月より通所介護サービスを開設した。利用者の方々が地域的话题を提供して下さることで、入居者・職員の活性化にも繋がっている。また地域の方々を対象に“認知症と共に生きる私たち”としてグループホームの役割や、認知症ケアについての講演を行い、認知症に対する理解を深めている。	○	今後も認知症に対する理解者を増やせるような活動や、気軽に相談できる関係を築いていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価し、外部の評価をしっかり受け止め改善点を勉強会で検討し、ケアの見直しや改善に生かしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に場を設け、報告及び話し合いを行い意見交換が出来ている。家族に限らず地域・行政の方々にも花水木の現状を理解して頂き、アドバイスを受けケアの向上に生かしている。参加出来なかった方には通信を通して報告し理解を得ている。	○	これまで以上に参加が増えるよう呼びかけを強化していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政より認知症についての講演依頼があり、また認知症ケアについての現場の様子を利用相談等で話す機会があり、情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方が入居しており、家族の方と連携を図り後見人が成立するまでの流れを学ばせて頂いた。	○	後見人の方に報告を行いながら支援に努めていきたい。これまで以上に詳しく学んでいきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同系列施設での勉強会“高齢者虐待防止法出前講座”に参加し学ぶ機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を見て頂き、職員が十分な説明を行い、不安や疑問はその都度受け止め、納得して頂けるまで話し合うよう努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設けている。運営推進会議等で不満等があった際には記録に残し、全職員への報告を行い早急に解決するよう努めている。	○ 苦情があった際には緊急で勉強会開催し改善策を検討する。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりに関しては面会時に報告している。健康状態に関しては受診連絡帳を作成・記入し、口頭でも説明している。金銭管理はお小遣い帳に使用金額を記入し、家族の確認を持って署名・捺印を頂いている。異動は通信で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を設け、重要事項説明書にも記載し、ホーム内でも掲示している。また運営推進会議や面会時に頂いた意見を受け止めケアに反映するよう努めている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている勉強会に運営者も参加し、職員一人ひとりが思っていることを話す場を設けている。小さなことでも職員全員でディスカッションし意見交換の場が確保されている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	活動の幅を拡大するために一日の中で午後は人員を多く確保し、利用者一人ひとりとの関わりをより重視したケアに向けて努力している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	殆んどは体調不良による退職が多く、勤務中に話をしている。退職後も時折来て頂いている。新しい空気を出し入れするように、新しい職員を受け入れている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員的能力ややる気に応じて、どんどん研修に参加させている。またその情報を大切に実践している姿を評価したい。	○ 研修に参加することで、伸びる人はケアも変わり仕事にも意欲を出している。利用者にとっても大変良い効果が出ている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の意見交換の場を設け、実現している。	○ 自分たちのホームでは見れないことを、定期的に他のホームへ訪問し、情報交換する機会を設けたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの原因を職員同士で意識し、見守り、利用者との関わりを配慮し軽減を図っている。	○ 利用者との年齢差もあることで、上手くコミュニケーションが取れない、認知症の専門知識が薄いことで一歩引くことがあるため、どんどん専門知識を学んでいって欲しい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	気付いたことはその場で注意し、また意見を聞き納得の上での指導を行っている。	○ 職員自身も自分らしさをもっと出して、特技とすることを認め合い、どんどんケアに活かして欲しい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実態調査や本人との日常会話の中から不安や要望を引き出すよう努めている。また利用者のバックグラウンドを理解し、不安や困っていることの要因を探るよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人とは別に面会の場を設け、家族の思いを何うようにしている。そして本人にとって何が一番大切か、家族・職員が理解し今後のケアに反映するよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって今必要としていることを見極め、当グループの施設等を頭に入れて連携を図り対応している。	○	ADLの状態を把握し、その人にとって一番の場所を利用して頂く。週に一度、当グループ内で待機者リストをまとめ、幅広いサービスの提供が出来るよう努めている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通所介護サービスに関して体験見学という形を設けている。短期入所サービスも空室があれば受け入れており、段階を通して馴染みの関係が出来るよう工夫している。	○	本人にとって馴染める環境づくりの他に、これまで築いて来た人との付き合いも把握し、継続出来るよう支援していきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常生活の全てにおいて支え合いながら教えて頂くという姿勢を忘れず、残存能力を生かし日々の生活の中で発揮して頂けるよう支援している。	○	今後も変わらずに、昔から行ってきたことを継続して頂けるようお互いに支え合い生活していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事へのお誘いや日々の面会・運営推進会議を通して家族の意見や情報を提供して頂き、現在の様子は職員が報告し、共に利用者を支えていく関係作りに努めている。本人の望むケアに向けて自宅への帰宅や、外泊も家族に相談し受け入れて頂いている。	○	職員全員が利用者の気持ちを一番大切にしているため、家族への理解を深め自宅への帰宅の機会を増やしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	出来るだけ家族と一緒に過ごす機会を持って頂くために、行事参加をお願いしている。また、お墓参りや誕生日、家族行事等特別な日にも時間を共有して頂けるよう、働きかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との関係は勿論、利用者にとって大切な人々の把握に努めている。日々の会話の中で組み込んで行き、実際に出向いた際には、交流が持てるようお願いしている。	○	バックグラウンドを元に家族に限らず大切にしてきた人間関係をより深く知っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホーム内での利用者一人ひとりの居場所の確保と気の合う利用者同士の会話・関わりが持てるよう支援している。意思疎通が困難な方は、非言語的コミュニケーションを十分に配慮し、職員が中心となって他利用者との交流に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	花水木行事にお招きし、一緒に楽しい時を過ごして頂いたり、時折電話を頂き野菜等をおすそ分けして下さる等関係性は殆ど変わらず、お付き合いを保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で個々の希望や思いに耳を傾け、行動として表現されるものを察するよう努力している。定期的なケアカンファレンスで、職員全員で一人の人を見つめ、その人に立場に立って様々な角度から把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを用い情報収集を行っている。小さな事でも記録に残し、バックグラウンドの把握の徹底に努めている。	○	関わりの中から新しく知り得た情報は、記録に残すだけでなく、職員全員で共有していく。日々の生活の中で本人の言動を大切に思い出はしっかり残してあげたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	今どのような思いで行動に表現しているのか、言葉にならない状態の把握に努め“満足度”を重視するよう努めている。また、どのようなときに行動として表現しているのかを検討し職員間で考えている。	○	無理強いすることなく自然な流れに職員も乗り穏やかな生活を送って頂くよう、一人ひとりの生活パターンを知り一日を心地よく過ごして頂けるよう支援していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアワークシートを活用し様々な視点から職員間で情報を共有している。三ヶ月に一度ケアプランを見直し、家族からの意見も伺っている。本人のやりたいことを叶えるために、満足度・一番大切なことを本人・家族・職員で話し合う機会を設けている。	○	利用者の『夢』をケアプランに反映させ叶えてあげたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回のモニタリング・ケアプランの見直しを原則に行っているが、心身共に変化が生じた場合には話し合いの場を設け、新たな介護計画を作成し、本人にとって今何が一番大切かを共有している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を書く際、プランに基づいたケアを行ったときには、チェックを入れている。また、日々の生活の中で気付いたことを職員全員が個別にケアワークシートに記入し、情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。	○	一人ひとりのケアプランを全職員が必ず目を通すことで把握し、プランに添った記録を書くように継続していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望や行動に合わせ外出する際は、気持ち良く出掛けられる体制を作っている。通所介護サービスに関しては、時間差での利用開始や、時間延長を行ったりと、家族の状況に合わせて柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	以前からの月一回折り紙ボランティアの受け入れに加え、今年三月から絵手紙ボランティアも月一回のペースで来て頂いている。防災訓練の際は消防にお世話になっている他、保育所で行事がある際にはお声を掛けて頂いている。	○	11月に近隣老人クラブのコーラスグループがボランティアで来所予定。今後もボランティアの受け入れを多く持ち、他機関との協力体制を強化していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通所介護サービスにおいては他事業所のケアマネジャーと話し合いの場を設けたり、相談を受ける機会がある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加して頂き、グループホームの様子・現状の情報交換をしている。通所介護サービス利用希望の相談を受ける機会もある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居にあたり、ホームの協力機関へ主治医を変更して頂き、緊急時のときも適切な処置を受けられている。また、必要に応じ他医療機関を受診されることもあり、主治医に結果報告を行っている。	○	10月より、月一回主治医による往診が開始した。これまでに以上により良い信頼関係を図り、適切な医療を受けられるように支援していきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	10月から主治医の往診が開始した。同行する看護師といつでも気軽に相談できるような関係作りを築いていきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	最終的には本人の思いを大切に、今後医療的処置が必要となった場合でも、入院を望まない方には、医療機関・家族との連携を密にして、出来る支援を行えるよう検討していきたい。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊厳の気持ちを持ってケアに望んでいる。職員間でお互いの言動をチェックし合い、注意するよう努めている。勉強会の度に話題にし、馴れ合いの関係になったりプロ意識が欠けることのないよう話をしている。個人情報外部の目の届かない所に保管し注意を払っている。	○	ホーム内での職員同士のプライベートな話題は持ち込まないよう意識している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一人ひとりが満足して頂けるような関わり方・声掛けの工夫をし安心が得られるよう支援している。本人の思いに気付くために、小さいことでも気付いたことは職員全体で共有するよう努めている。利用者の現状を把握した上で、個々に見合った声掛けをしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が出来るよう、強制するのではなく寄り添い支え合いながら本人のペースを見極めるよう努力している。本人の希望に合わせて個々に関わる時間を確保したり、外の空気に触れる機会を設け、その時その瞬間にどのようなことを感じているのかを知れるよう努力している。	○	日々の生活の中から、本人の思いや希望を探り、察する技術を身に付けていきたい。一人ひとりが大切にされている、愛されてるといふ思いを感じて頂けるようケアに望んでいきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装に関しては本人の意思を確認し、季節に見合ったコーディネートが出来るよう支援している。本人の希望に添って美容院を選択し直接出向いている。お化粧品をされてきた方に関しては、化粧品をするという事を忘れないよう声掛けし、その人それぞれのおしゃれのお手伝いをさせて頂いている。	○	いつまでもその人らしい身だしなみ・美しさを保てるよう支援させて頂きたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方々に食べたいものを伺い、年齢・体調・季節に見合った献立を作成している。買い物からも季節を感じ、旬の物を手に取り、調理に望み、後片付けに至るまで一人ひとりにあった役割を持ち行っている。	○	買い物では旬の食材に触れる機会となり、本人が食べたいと思うだけでなく、調理の説明から実際に作って頂き、昔ながらの味を職員に教えて下さる良い関係が出来ている。今後も継続していきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒・たばこを好む人がいない。飲み物・おやつは皆さんの楽しみの一つであり、買い物等で希望を伺うようにしている。季節ならではののおやつを取り入れ、馴染みのあるものを提供するよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パット使用者二名、おむつの使用者はいない。出来るだけパットの使用を避けるため必要に応じてトイレにお連れしている。24時間排泄チェックをし個々の排泄パターン・尿便の量の把握に努めている。排便に関しては医師からの指示もあり、下剤の内服コントロールも行っている。	○	一人ひとりの残存機能を大切に現在の排泄方法を継続していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	木曜日以外毎日午後入浴を行っている。入浴の時間帯は出来るだけ希望に添っているが、毎日のことの為ほぼ決まった時間がある。気の合った同士と一緒に湯船に浸かる等楽しみも取り入れている。利用者と触れ合う大切な時間として、関わりも重視しながら清潔保持に努めている。	○	ある程度の時間にとらわれず入浴して頂きたい。一人ひとりの気分も考慮し日々の入浴の順番も見直していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態と日中の活動状況のバランスが取れるよう、状況と本人の希望に応じて昼寝の時間を設け休んで頂いている。睡眠状態はチェック表に記入し夜間のリズムを把握している。室温・排泄の声掛けのタイミングも安眠の妨げにならないよう注意を払っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまで行ってきた能力を生かせるよう個別に役割を分け、毎日の日課として掃除・洗濯・食事作り・片付けを行って頂いている。また日々のメリハリとして散歩や買い物・ドライブへ個別に出掛ける機会があり楽しみや出来ることへの支援を行っている。	○	個々の出来ることを生かせるよう、出来ること・出来ないことの把握に努めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望に添って所持したり使用している。安心のために所持している方もいる。金銭管理を行うにあたり、家族から同意を頂き、購入した物をお小遣い帳に記入し、細めにチェックして頂くよう努めている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出たいという思いを尊重して、危険のないように職員が付き添ったり見守りを行って、戸外へ自由に出掛けられるよう支援している。また散歩や買い物等何らかの形で外へ出掛ける機会がある。地域のイベント等にも積極的に参加している。	○	ADL維持の為にも散歩は継続していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホーム行事として家族と共に温泉旅行・お花見等遠方に出掛ける機会を設けている。また自宅へ行く機会やお墓参り等、ホーム入居よりあまり足を運ばなくなった所にも出向いて頂くように積極的の家族に働きかけている。	○	本人の望むところを引き出し、出来るだけ出向けるよう家族と相談していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安な気持ちを家族の声を聴くことで解消される方も居りその都度支援している。本人が思いを綴った際には家族へ手紙を送るようにしている。	○	絵手紙ボランティアを受け入れているため、段階を踏んで葉書サイズに文字を書き定期的に家族に送れるようにしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも来訪して頂けることをお話している。来て頂いた際には他者に気を遣うことなく過ごして頂けるよう居室でゆったりとした時間を過ごして頂いている。また馴染みの方には来所をお願いし、関係を継続出来るよう働きかけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	同系列施設での勉強会に参加し学ぶ機会を設けている。原則として身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠は行っていない。鍵を掛ける・掛けないに関わらず見守りを重視している。屋外に自由に出入り出来るようになっており、利用者が出掛けた際には付き添い・見守り本人が満足できるよう支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時目配り・気配りに心掛けている。プライバシーに配慮しながら自然な見守りで対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁が入っている場所には鍵を掛け危険防止に配慮している。口にして危険なおむつ・洗剤・漂白剤等は収納することで今の所問題はない。個々の所持品は状態に応じてお預かりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じて起こり得るリスクを念頭に置き注意を図っている。薬は全て職員で管理させて頂いている。転倒・窒息等があった際には医師の指示が頂ける協力病院がある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行っていない。	○	10月より往診が開始したため、医師・看護師に協力を頂き問題点を解決していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	春と冬に日中と夜間を想定した防災訓練を消防署の協力を得て実施している。また地域の方にも事前に協力依頼し参加して頂いている。事前通告無しの訓練も実施した。非常食の備蓄も十分に準備している。	○	災害時には同じ地域住民として炊き出しや避難場所も提供を行い協力していきたい。運営推進会議の際も話が出ている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族へは話をしている。状態変化に応じ、細めに家族とのコミュニケーションを図り、行動の制限をしないよう対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りノートに記録し、職員全員で共有している。異常があれば速やかに協力病院に連絡し指示通りに行動している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋・薬の一覧表を頂き目を通し確認している。変更があった場合には申し送りノートの活用・口頭での申し送りに徹底している。服薬管理は全て職員が行っており、手渡し見守りにて内服して頂いている。変化があった場合には随時若しくは定期受診時に受診連絡帳に記入し報告している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立を工夫し食物繊維を多く含む食品を使用するよう努力している。水分補給も細めに行っており、散歩を通して運動する機会を設けている。排泄チェック表で排泄チェックを行っており、出ない日が続いた場合は腹部マッサージを行ったりしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	角田市の歯科医師会の方で訪問口腔ケアの慰問があった。全員の口腔内の診察を行って頂いた。治療が必要となった方に関してはすぐに歯科受診し治療を終えている。毎日食後の歯磨きも実施しており、充分でない方に関しては口腔ケアを介助させて頂いている。義歯使用者は洗浄剤を使用し清潔にしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎週月曜日に体重測定を行い、その変化に応じて食事量を調節している。一人ひとりの体調に合わせて配膳の際に刻み食・粥・とろみ食と個別に対応している。献立は野菜中心に一日のバランスを考え取り組んでいる。水分量はその日の気温や運動量にも配慮し、時間を決めるのではなく、細めに摂取して頂いている。	○	一人ひとりの状態に合わせて食べやすさの工夫(とろみ食・介護食)を職員で統一できるよう勉強会等で考えていきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年全員行っている。感染症予防のマニュアルがあり、外出先から帰宅した直後・食事の前・トイレの後は徹底した手洗い・含嗽を実施している。	○	今後も手洗い・含嗽を強化していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板・食器布巾・ボール・ざるの消毒は夜間帯に徹底して毎日欠かさず行っている。生鮮食品はその日のうちに食べ切り、その日作った物以外は配膳しないように決めている。	○	調理用具の消毒の施行と新鮮な食品を使用することを継続していく。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭から玄関までは二段の階段と、緩やかなスロープで出入りし易い環境になっている。玄関に向かうまで花・木が季節毎に彩りを楽しませてくれる庭となっており、季節感を味わうことが出来る。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るすぎず、暗すぎない柔らかな照明となっており、日中は自然の光を室内で感じる事が出来る。室内温度は外気との差がないよう注意を図り、日中は換気も兼ねて窓を開け、自然の空気を取り入れている。ホールからは庭を眺めることが出来、季節の移り変わりを感じられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる空間として西廊下の端に椅子がある。ウッドデッキも天候の良い日には日光浴や外気に触れる場所として利用されている。気の合った利用者同士で過ごせる共有スペースも確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持って来て頂けるように話しており、箆笥・ラック等持参されている方もいる。ホーム内で作成した作品・写真・絵等も飾られている。馴染みのものがあることで気持ち不安定になる方も居られるので、持参されていない方もいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	出来るだけエアコンは使用せず、自然の風を取り入れている。換気は細めに行い、温度調節は利用者の声を伺いながら調節している。個々の居室には冷暖房があり、状況に応じて調節し健康管理に努めている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	広々とした空間をゆったりと使用出来るよう、危険なものは置かない。ホールから殆どの居室に目が届くため、声掛け・見守り対応している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力を把握し、残存能力を引き出す工夫をしている。使い慣れたものの配置は変えないようにしている。暦は混乱を避けるため日めくりカレンダーを使用。トイレには“お手洗い”の表示をつけ、通初介護サービス利用者の混乱防止にも努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭は季節に応じて花・木の移ろいを感じる事が出来る。ウッドデッキでは日光浴を楽しんだり、独りの時間を過ごすよう自由に行き来出来る。ガーデニングを楽しまれる方もいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

花水木の理念に掲げている“ゆったり 楽しく 共に寄り添う生活”を日々目指しケアに望んでいる。朝起床してから夜入床するまで、家族同様食事の時間が決まっている以外は、その人らしい生活をして頂き、皆さん思い思いの時間が流れている。日課として毎日散歩に出掛け日光に当たらない日などなく、健康面でも風邪をひかない体力づくりが自然と出来ている。日々の中に刺激を感じて頂けるよう季節毎に楽しめる苺狩り・梨狩りに出掛けたり、お花見・温泉旅行・夏祭り・クリスマス会・餅つき等職員独自に企画し、皆さんと共に楽しむ機会を設けている。また家族との繋がりも大切にしている。開所から五年目に入りこれまで以上の信頼関係が築けていると職員一同感じており、自宅に帰宅することや、節目の墓参り、家族団らんの一時に一緒に過ごして頂けるよう働きかけている。地域とのお付き合いとして、新年会・敬老会・地区総会・清掃活動等地区の方々との交流の場に積極的に足を運んでいる。近所にある保育所からは花水木のおじいちゃん・おばあちゃんと慕われ、お遊戯会・運動会では子供たちの活躍を見せて頂いている。月一回発行している花水木通信は、現区長さんの計らいで、回覧板に載せて頂き、地区全体の目に留まることで、散歩・外出時で近隣の方々との言葉のやり取りが増えてきている。皆さんの健康管理として、10月より、主治医往診が開始し、医療との連携を図りつつ、住み慣れた場所で医師に来て頂き、コミュニケーションを充分に図れる事で安心感が得られている。また通所介護サービスも受け入れており、自分たちの家(花水木)に招き入れる利用者の眼差し、心のあらわれはとても温かく優しさの雰囲気が醸し出され、日常の生活にも変化があり、開かれたグループホームだと感じている。